

## 「新世紀の日本外交の展望」特集号によせて

21世紀を迎えるに当たり、本研究所の『紀要』では日本外交のあり方に関する論考を特集してみてもどうか、ということが昨年春の運営委員会で決まり、なるべく斬新な視点からの考察を示すものを求めることにした。この世紀の変り目には、日本外交の見直しを論ずる議論があちこちから出てくるであろうと予測され、現に『外交フォーラム』誌が本年1月号において「外交特集」を組み、また、『国際問題』誌が昨年11月に創刊500号記念特集として、日本外交50年を回顧する論文及びインタビューを掲載している。運営委員会では、他の同種の論議と少し違うものを特集できないかと考えた訳である。

このような観点から、正式の国家間又は政府間の外交に関する議論の展開は他誌に任せ、近年重要度を増してきているNGOの働きに目を向けて、その分野で活躍している人々に執筆をお願いすることを試みた。運営委員の直接・間接の知り合いで、NGO活動に関わっておられる方々に執筆をお願いした結果、お忙しい中4名の方から原稿を頂戴することができた。これに加えて、本学現代中国学部の教員3名がそれぞれ専門とする分野からの論稿を出して下さり、計7本の論集とすることができた。

各論文の内容については、運営委員会として何も注文をつけず、自由に発想し自由に書いて頂くこととした。その結果、従来の日本政府の外交を真正面から批判するもの、その軌道修正を求めるもの等、ニュアンスの異なる論考が並立することになった。このような形の特集が成功しているかどうか、また、各論文をどう評価するかは読者諸賢のご判断にお任せしたい。私どもとしては、忌憚のないご批判を仰ぎ、今後の編集に役立てたいと願っている。

2002年2月28日

所長 三好 正弘